

- ①黒星病の重点防除時期です。薬剤散布では、降雨前散布、前回散布から10日以内の散布を心がけましょう。
②SSの走行には十分注意し、けがや事故の無いように散布しましょう。
③凍霜害により王林などに花器損傷が見られます。品質の見極めに時間がかかると予想されますが、摘果遅れとならないよう計画的に作業を進めましょう。

りんごの生態 下記を参考にし、適期散布に努めましょう【()は営農係での予想です】。

観測地点	年	ふじ展葉日	ふじの開花日	ふじの満開日	ふじの落花日
森山	本年	4/7	(5/1)	(5/6)	(5/10)
三ツ目内・苦木・元長峰 ・長峰・九十九森	本年	4/8~4/11	(5/3)	(5/8)	(5/12)
駒木・唐牛	本年	4/11~4/12	(5/4)	(5/10)	(5/14)
駒ノ台	本年	4/14	(5/6)	(5/12)	(5/16)
島田・高野新田	本年	4/15	(5/7)	(5/13)	(5/17)
古懸	本年	4/9	(5/2)	(5/7)	(5/11)
りんご試験場	本年	4/7	(5/1)	(5/6)	(5/10)
	平年	4/18	5/7	5/12	5/16
	前年	4/13	5/7	5/11	5/14

薬剤散布

SSの事故には十分注意しましょう。

回数 散布量	散布時期	参考日	対象病害虫	基準薬剤					防除の要点	
				薬剤名と混用順序	倍数	1,000ℓ当	収穫前 日数	使用 回数		
3 320ℓ以上	ふじの 開花直前 前回から10日 以内	5/4 ~6頃	黒星病、モニア病 腐らん病、うどんこ病 ミダレカクモン	展着剤 カナメF バイオマックスDF	4,000 2,000	250ml×1 500g×1	前日 前日	1回 -	① 前回から10日以内に散布します。	
4 350ℓ以上	ふじの 落花直後 前回から 10日以内	5/12 ~14頃	黒星病、うどんこ病 腐らん病、黒点病、斑点落葉病 リンゴハダニ、ミダレカクモン リンゴコカクモン	展着剤 ミギワ20F チオノックF バイオマックスDF	4,000 500 2,000	125ml×2 2ℓ×1 500g×1	前日 30日前 前日	1回 5回 -	① 前回から10日以内に散布しましょう。 ② リンゴハダニが多い園地では、バロックフロアブルも 使用しましょう。	
5 350ℓ以上	ふじの 落花10日後 (5月下旬)	5/22 ~24頃	黒星病、斑点落葉病 すす点・すす斑病 うどんこ病、腐らん病 黒点病、ハダニ類、キンモン クワコナカイガラ	展着剤 ジマンダイセン水和剤 ユニックス顆粒水和剤 エルサン水和剤 カルマツチ クレフノン	600 2,000 1,000 770 100	1.67kg×1 500g×1 1kg×1 1.3kg×1 10kg×1	30日前 14日前 45日前 - -	3回 1回 2回 - -	クワコナカイガラが多い樹では落花 10日~20日後頃に胴木洗いを 行いましょう。	
6 420ℓ以上	ふじの 落花20日後 (6月上旬)	6/1 ~3頃	黒星病、斑点落葉病 すす点・すす斑病 うどんこ病、腐らん病 黒点病、ハダニ類 クワコナカイガラ アブラムシ、キンモン	展着剤 ジマンダイセン水和剤 スプラサイド水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,500 770 100	1.67kg×1 667g×1 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 - -	3回 2回 - -	散布が前倒しとなり、生態とズ レが生じた場合は、 チオノックF 500倍など の特別散布により調整し、 7月初めの散布が7月初めに散 布されるようにしましょう。	
7 500ℓ	ふじの 落花30日後 (6月中旬)	6/11 ~13頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、黒点病 腐らん病、炭そ病、褐斑病 キンモン、シャクトリムシ モモンクイガ	展着剤 ジマンダイセン水和剤 ダイアジノン水和剤 カルマツチ クレフノン	600 1,000 770 100	1.67kg×1 500g×2 1.3kg×1 10kg×1	30日前 30日前 - -	3回 4回 - -	散布でお困りの方は 営農係までご相談くださ い！！	
8 500ℓ	落花40日後 (6月下旬)	6/20 ~22頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病、褐斑病 黒点病、腐らん病、炭そ病 ハダニ類、モモンクイガ キンモン、キンモン	無ボルドー方式						
9 500ℓ	7月初め (7月上旬)	7/1 ~3頃	斑点落葉病、黒星病 すす点・すす斑病 炭そ病、褐斑病、ハダニ類 モモンクイガ、キンモン キンモン、シャクトリムシ	展着剤 オキシンドーWSB アーデントF エコマイト顆粒水和剤 カルマツチ	1,200 2,000 2,000 770	835g×1 250ml×2 250g×2 1.3kg×1	14日前 前日 7日前 -	4回 3回 1回 -		

- 展葉初期から降雨があると黒星病に感染する恐れがあります。
6月いっぱいまでは散布間隔10日以内で、ゆっくりていねいに降雨前散布をしましょう。
- 散布ムラの無いようにしましょう（SSの速度・散布量の見直し、樹の混み具合を解消するなど）
- 霧、朝露などで葉が濡れている場合は乾いてから散布しましょう。
- 7月上旬の薬剤は散布時期が合うように特別散布などで調整しましょう。

霜害をふまえた摘果

本年の開花状況を見ると、場所や地域によって生態の早い品種（王林やジョナ）を中心に霜害が見受けられます。中心花のツルの短いものやオシベが無いものがありますので、今後の実立ちや品質を確認しながら、摘果遅れや成らせ過ぎとならないように管理が必要です。

霜害の程度が強いと思われるところ

①新梢の摘花（果）を行う。

人工授粉や摘花を行えない場合は、一輪摘花はさけて新梢の摘花に全力を注ぐ。

②実立ちや生育を確認次第、予備摘果（一つ成り）は早く、仕上げ摘果は遅くする。

被害があるからといって予備摘果を遅くすると、品質に影響するだけでなくジューンドロップの原因にもなります。

仕上げ摘果は、品質を見極めてから行いましょう（落花 20 日以降からサビ果などの品質がわかりやすくなっていきます）。

***成らせ過ぎや摘果遅れとならないよう十分考慮して摘花・摘果を進めていきましょう。**

参考：側果を残した場合の品種別傾向

ふ じ：比較的肥大します。

ジョナ：比較的肥大しますが、サビ果が多い傾向。また、ジューンドロップで落果しやすい傾向です。

つがる：サビ果が多い傾向。また、ジューンドロップで落果しやすい傾向です。

王 林：小玉果、サビ果となりやすい傾向。

仕上げ摘果

ふじで1果あたりに必要な葉の枚数は50枚程度です。

多く成らせすぎると、1果実あたりの葉の枚数が不足し、

①肥大 ②食味 ③着色 ④次年度の花芽

などへ大きく影響します。

仕上げ摘果が遅れないよう、また最終的に成らせすぎない

ように注意しましょう。

摘果の強度と花芽形成及び果実品質(りんご試:ふじ)

摘果の強度	次年度の花芽率 (%)	収量/100頂芽 (kg)	果重 (g)	糖度 (%)	着色良品果率 (%)
3頂芽に1果	41	7.8	251	14.3	45
4頂芽に1果	55	7.4	285	14.5	51
5頂芽に1果	55	6	278	14.8	55

摘果剤について

摘果剤は果実表面から吸収されるため、散布量は十分に散布しましょう。

また、散布後高温が続くと効果が高いようです。

散布 7~10 日後に効果が見えてきます。

マイクロデナポンは中心果と側果の大きさに差があると、小さい果実（側果）の生育が阻害され落果や生育不良となります。*極端に樹勢の弱い樹には、散布を控えてください。

摘果剤使用方法	品種ごとの散布適期	
マイクロデナポン水和剤 1,200倍 (3500以上/10a) 展着剤を加用	ふ じ	8~10 mm
	ジョナ	15 mm
	つがる	14 mm
	王 林	12 mm

使用時期	品種
満開後 2 週間後 タイプ	ふじ・陸奥・王林・北斗・さんさ・早生ふじ・トキ・シナノスイート
満開後 3 週間後 タイプ	紅玉・星の金貨・ジョナ・つがる

世界一、千秋、もりのかがやき、ぐんま名月、ジョナ、つがるは落ちすぎる場合があるため注意しましょう。

恋空、シナノゴールド、きおうは摘果効果が低いです。